

【主な学習内容】

- ◎アルファベットの小文字と大文字→単語の違いによる使い分け例を理解して、正しく記入できるようにする。
- ◎絵を見て読み書きする単語の練習→単語の発音を示し、罫線上に正しく記入できるよう丁寧に練習をさせる。

学習内容	補足・留意事項など
<p><b>① アルファベットの正しい使い分けと記入練習</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>① アルファベットには大文字と小文字が26個ずつあることを再確認する。</p> <p>② アルファベットを1字1字発音練習させ、A(a)~Z(z)まで暗唱できるような練習をさせる。</p> <p>③ 書体には「活字体」「ブロック体」「筆記体」があり、ていねいに書くための書体である「ブロック体」を練習し、習得することが大前提となる。大文字から小文字の順で書く練習をさせる。なお、「筆記体」は字と字をつなげて、速く、かつ美しく書けるように工夫されたものである。「ブロック体」同様、線の使い方に注意しつつ、1度書き始めたら手を離さないで書けるようにする。点や棒は最後につける。</p> <p>※ ブロック体の小文字の導入</p> <p>① 2階建て…b・d・f・h・k・l</p> <p>② 1階建て…a・c・e・i・m・n・o・r・s・t・u・v・w・x・z</p> <p>③ 地下室付き…g・j・p・q・y</p> <p>→黒板に線を引いて間違いやすいものを書いてみせる。正しく書けるように似たような文字に注意するよう指導する。</p> <p>→似たような文字の例 [b・d] [p・q] [m・n] [a・u] [h・n・r]</p> <p>④ 名詞に普通名詞と固有名詞の別があることもあわせて伝えておくのもよい。</p> </div> <p><b>② 絵を見て正しく読み書きする単語の反復練習</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手順①…まず1語ずつ発音の手本を示し、それをまねして反復させるという形で発音練習をさせる。</p> <p>手順②…一通りの発音練習をすませたあとで、それぞれ単語をブロック体で書く練習をさせる。</p> <p>手順③…アクセントに注意させる。特に、カタカナ言葉(外来語)として知っている英単語には日本語で話す場合とはアクセントの位置が違うものがあるので注意させる必要がある。</p> <p>※ notebook の発音に注意。</p> <p>※ bag・cap・cat と watch の発音の違いに注意。</p> <p>※ bird の発音に注意。</p> <p>※ orange のアクセントに注意。</p> <p>※ cake の発音に注意。apple や watch などと同じ文字なのにそれぞれ発音が違うことにも注意。</p> <p>※ school と book の発音の違いに注意。</p> <p>※ uniform の造語法で単語のでき方も伝えたい。</p> </div>	

【主な学習内容】

- ◎絵を見て読み書きする単語の練習→単語の発音を示し、罫線上に正しく記入できるよう丁寧に練習をさせる。
- ◎重要英単語の発音書写と暗唱練習→数・曜日・月などの重要英単語の語源にもふれつつ発音書写を徹底する。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 絵を見て正しく読み書きする単語の反復練習</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手順①…まず1語ずつ発音の手本を示し、それをまねして反復させるという形で発音練習をする。</p> <p>手順②…一通りの発音練習をすませたあとで、それぞれ単語をブロック体で書く練習をさせる。</p> <p>手順③…アクセントに注意させる。特に、カタカナ言葉(外来語)として知っている英単語には日本語で話す場合とはアクセントの位置が違うものがあるので注意させる必要がある。</p> </div> <p>② 英単語の文字を見て発音し、正しく書き、単語の意味も確認する反復練習</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 人の立場や人の職業を表す英単語に共通する語尾についてふれる。</li> <li>※ teacher や student や singer といった名詞とこれらに対応する動詞についてもふれる。</li> </ul> </div> <p>③ 数を表す単語を発音書写し、暗唱できるようになるまで反復練習させる。</p> <p>④ 曜日を表す単語を発音書写し、暗唱できるようになるまで反復練習させる。</p> <p>⑤ 月を表す単語を発音書写し、暗唱できるようになるまで反復練習させる。</p> <p>⑥ 日本語を見て、英単語の発音を想像させ、文字におこす作業を繰り返す。</p>	

# 8 This [That] is ~ . / I am ~ . You are ~ .

◆指導ページ P.16 ~ 17◆

**【主な学習内容】**

- ◎ be 動詞を使う文→主語の違いによる, be 動詞(am / are / is)の使い分け方を学習する。
- ◎ 冠詞(a / an)について→名詞の分類を導入して, 冠詞(a / an)の意味と用法を習得する。

学習内容	補足・留意事項など
<p><b>1 be 動詞(am / are / is)を使う文</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 英文の基本構造→A X B . (X は述語動詞, 英文は 1 文 1 動詞が原則で省略不可能)</p> <p>① X が be 動詞のとき…A は B です。(A=B) [第2文型]</p> <p>② X が一般動詞のとき…A は B を～する。(A→B) [第3文型]</p> <p>☆ 述語動詞が be 動詞の文</p> <p>① A が「I」(私)のとき…X の be 動詞は「am」になる。</p> <p>② A が「You」(あなた)のとき…X の be 動詞は「are」になる。</p> <p>③ A が「This / That」(これ/あれ)のとき…X の be 動詞は「is」になる。</p> <p>☆ 主語が「I」の be 動詞の文→「I am ~ .」…「私は～です。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は真理です。→ I am Mari.</li> <li>・私はトムです。→ I am Tom.</li> </ul> <p>☆ 主語が「You」の be 動詞の文→「You are ~ .」…「あなたは～です。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたはアンです。→ You are Ann.</li> <li>・あなたは恵子です。→ You are Keiko.</li> </ul> <p>☆ 主語が「This」の be 動詞の文→「This is ~ .」…「これは～です。」「こちらは～です。」</p> <p>用法…近くにある「1つのもの」や近くにいる「1人の人」を, 指し示すときなどに使う。</p> <p>☆ 主語が「That」の be 動詞の文→「That is ~ .」…「あれは～です。」「あちらは～です。」</p> <p>用法…離れたところにある「1つのもの(1人の人)」を, 指し示すときなどに使う。</p> <p>※ be 動詞…原形は「be」, 現在形は「am / are / is」, 意味は「イコール」「存在する」。</p> </div> <p><b>注意</b> 短縮形は1語扱い!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・That is a desk. = <u>That's</u> a desk. (※ This is の短縮形はない)</li> </ul> <p><b>注意</b> 英文のルール</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① すべての文の最初の文字は大文字にする。</li> <li>② ふつうの文の最後にはピリオド(.)をつける。</li> <li>③ 文中でも人名や地名の最初の文字と「I」は大文字にする。</li> </ol> <p><b>2 冠詞(a / an)について</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 名詞の分類→数えられる名詞(可算名詞)・数えられない名詞(不可算名詞)</p> <p>① 数えられる名詞…形のあるもの・固定的なもの(人に関する言葉・単位性のある物体)</p> <p>具体例…少年・少女・先生・生徒・卵・りんご・テーブルなど</p> <p>② 数えられない名詞…形のないもの・変動的なもの(原材料としての物質・概念的な言葉)</p> <p>具体例…牛乳・水・砂・紙・パン・親切・友情など</p> <p>☆ 冠詞(a / an)の意味…「1つの」という意味で, 日本語には訳さないことが多い。</p> <p>☆ 数えられる名詞の場合→名詞の直前に冠詞(a / an)をつける。</p> <p>数えられない名詞の場合→名詞の直前に冠詞(a / an)はつけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は学生です。→ I am a student.</li> <li>・あなたは英語の先生です。→ You are an English teacher.</li> </ul> </div> <p><b>注意</b> 冠詞(a / an)の使い分け</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 次にくる語が母音ではないとき→ a boy / a table / a Japanese(日本人)</li> <li>② 次にくる語が母音のとき→ an egg / an apple / an American(アメリカ人)</li> </ol> <p><b>注意</b> 固有名詞に冠詞は不要! …1つだけしか存在しないものに「1つの」はいらない。</p> <p>固有名詞=人名や地名など→(×)a Jack / (×)a Japan(日本)</p>	<p>●短縮形は1語扱い!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・I am Tom. = <u>I'm</u> Tom.</li> <li>・You are Keiko. = <u>You're</u> Keiko.</li> </ul> <p>●名詞の直前に着目!</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 母音で始まる名詞 →「an」を使う</li> <li>② 数えられない名詞 →「a / an」はつかない</li> <li>③ 人名や地名などの固有名詞 →「a / an」はつかない</li> </ol>

9

Is this [that] ~ ? / Are you ~ ?

◆指導ページ P.18 ~ 19◆

【主な学習内容】

- ◎主語が「this / that」の be 動詞を使う文の疑問文→「this / that」が主語となる疑問文の作り方と答え方を学ぶ。
- ◎主語が「you」の be 動詞を使う文の疑問文→「you」が主語となる疑問文の作り方と答え方にも注意する。

学習内容	補足・留意事項など
<p><b>1 文の種類[意味上の分類]</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 文の種類[意味上の分類]…感嘆文をのぞく、すべての文に肯定形と否定形がある。</p> <p>① 平叙文…事実をそのまま述べるふつうの文。いわゆる肯定文と否定文のことである。</p> <p>② 疑問文…ものごとを尋ねる文。文末に疑問符(?)がつく。否定疑問文も存在する。</p> <p>③ 命令文…命令や依頼を表現する文。主語は省略。否定形は禁止の意味で用いられる。</p> <p>④ 感嘆文…驚きなどの感情を表現する文。文末に感嘆符(!)がつく。否定形はない。</p> </div> <p><b>2 主語が「This / That」の be 動詞を使う文の疑問文</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 述語動詞が be 動詞の疑問文の作り方→ be 動詞を文頭(主語の直前)に倒置する。</p> <p>※ [復習]主語が「you」のとき→ Are you ~?(あなたは~ですか。)</p> <p>① 主語が「this」のとき→ Is this ~?(これは~ですか。)</p> <p>② 主語が「that」のとき→ Is that ~?(あれは~ですか。)</p> <p>・これはあなたの猫ですか。→ Is this your cat?</p> <p>・あれは私のケーキですか。→ Is that my cake?</p> <p>☆ 述語動詞が be 動詞の疑問文の答え方</p> <p>※ [復習]主語が「you」のとき→主語は「I」にして、be 動詞も am にする。</p> <p>※ 主語が「this / that」のとき→主語は「it」にして、be 動詞も is にする。</p> <p>・はい、そうです。→ Yes, it is.(この it is は短縮形にできない。)</p> <p>・いいえ、違います。→ No, it is not.</p> <p style="padding-left: 40px;">No, <u>it's</u> not.(it is を短縮形にしたとき)</p> <p style="padding-left: 40px;">No, it <u>isn't</u>.(is not を短縮形にしたとき)</p> </div> <p><b>3 be 動詞を使う文の疑問文</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 述語動詞が be 動詞の疑問文の作り方→ be 動詞を文頭(主語の直前)に倒置する。</p> <p>※ 主語が「you」(あなた)のとき→ Are you ~?(あなたは~ですか。)</p> <p>・あなたは英語の先生です。→ You are an English teacher.</p> <p>・あなたは英語の先生ですか。→ Are you an English teacher?</p> <p>☆ 主語が「you」の be 動詞の疑問文の答え方→主語は「I」にして、be 動詞も am にする。</p> <p>・はい、そうです。→ Yes, I am.(この I am は短縮形にできない。)</p> <p>・いいえ、違います。→ No, I am not.(この I am は短縮形にできる。)</p> </div> <p><b>注意</b> 文の符号を忘れずに!</p> <p>① 疑問文の文末には、疑問符(?)をつける。</p> <p>② 答え方の Yes / No の直後には、コンマ(,)をつける。</p>	<p>●文の読み方</p> <p>→通常の疑問文では、文の最後を上げ調子にして読む。</p>

# 10 This [That] is not ~ . / I am not ~ . You are not ~ .

◆指導ページ P.20 ~ 21 ◆

**【主な学習内容】**

- ◎主語が「This / That」の be 動詞を使う文の否定文→「This / That」が主語となる否定文の作り方を学ぶ。
- ◎主語が「I / You」の be 動詞を使う文の否定文→「I / You」が主語となる否定文の作り方にも注意する。

学習内容	補足・留意事項など
<p><b>① 文の種類[意味上の分類]</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 文の種類[意味上の分類]…感嘆文をのぞく、すべての文に肯定形と否定形がある。</p> <p>① 平叙文…事実をそのまま述べるふつうの文。いわゆる肯定文と否定文のことである。</p> <p>② 疑問文…ものごとを尋ねる文。文末に疑問符(?)がつく。否定疑問文も存在する。</p> <p>③ 命令文…命令や依頼を表現する文。主語は省略。否定形は禁止の意味で用いられる。</p> <p>④ 感嘆文…驚きなどの感情を表現する文。文末に感嘆符(!)がつく。否定形はない。</p> </div> <p><b>② 主語が「This / That」の be 動詞を使う文の否定文</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 述語動詞が be 動詞の否定文の作り方→ be 動詞の直後に「not」を入れる。</p> <p>※ [復習]主語が「I」のとき→ I am not ~.(私は～ではありません。)</p> <p>※ [復習]主語が「You」のとき→ You are not ~.(あなたは～ではありません。)</p> <p>① 主語が「This」のとき→ This is not ~.(これは～ではありません。)</p> <p>② 主語が「That」のとき→ That is not ~.(あれは～ではありません。)</p> <p>・これはギターではありません。→ This is not a guitar.</p> <p>・あれはトムの自転車ではありません。→ That is not Tom's bike.</p> </div> <p><b>注意</b> 短縮形を使う</p> <p>① is not → isn't(1語扱い) That <u>isn't</u> Tom's bike.</p> <p>② That is → That's(1語扱い) <u>That's</u> not Tom's bike.</p> <p><b>③ 主語が「I / You」の be 動詞を使う文の否定文</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 述語動詞が be 動詞の否定文の作り方→ be 動詞の直後に「not」を入れる。</p> <p>① 主語が「I」(私)のとき→ I am not ~.(私は～ではありません。)</p> <p>② 主語が「You」(あなた)のとき→ You are not ~.(あなたは～ではありません。)</p> <p>・私は先生です。→ I am a teacher.</p> <p>・私は先生ではありません。→ I <u>am not</u> a teacher.</p> <p>・あなたは京都出身です。→ You are from Kyoto.</p> <p>・あなたは京都出身ではありません。→ You <u>are not</u> from Kyoto.</p> </div> <p><b>注意</b> 短縮形を使う(その壱)</p> <p>① am not → 存在せず(amn'tにはならない)</p> <p>② are not → aren't(1語扱い) You <u>aren't</u> from Kyoto.</p> <p><b>注意</b> 短縮形を使う(その弐)</p> <p>① I am → I'm(1語扱い) <u>I'm</u> not a teacher.</p> <p>② You are → You're(1語扱い) <u>You're</u> not from Kyoto.</p>	